

<p>映画祭を継続していくことの難しさというものは、どういう点だと思われませんか。</p>	<p>映画祭を継続するためには、人生を映画祭にかけ情熱を持って周囲を引っ張ってゆける人をフェスティバルディレクター（FD）に立てられるかどうかが一番重要です。更に行政と一緒にやる場合は、行政が映画祭の価値と意義を理解していることが長く続けるためには重要です。</p>
<p>隔年とか4年に一度というような開催などではどうなのでしょう？</p>	<p>映画祭そのものが無い年は、本番のための準備年に充てているところが多いです。準備年も結構、忙しくまた経費も必要となりますので開催期間を空けることで映画祭の継続性が増すわけでは無いと思います。あと、作家が1本のアニメーション作品を作るペースと映画祭が開催されるペースが合っていることも大切で、そういう点は2年に1回の隔年開催というは良いペースだと思います。</p>
<p>映画のテーマはどういうものが多いですか、平和とかですか</p>	<p>広島国際アニメーションフェスティバルのテーマは「Love & Peace」なので、作品のテーマも愛や平和に関係するものが多いとか、そのような作品でないと賞を取れないと思われるかもしれません。しかし、この映画祭が掲げる「Love & Peace」は、表現の自由が守られて作家や観客が自由闊達に交流できることを意味しています。ですから、作品のテーマやスタイルは実に多様でした。</p>
<p>戦争の経験や原爆の悲惨さなど、語り手が少なくなる中、今後の記録媒体の変化に対応も必要ですね。</p>	<p>近年、アニメータードキュメンタリーというジャンルの作品が注目を集めています。これは人々の体験や過去の出来事をアニメーションによって表現したもので、木下蓮三・木下小夜子の『ピカドン』などが有名です。体験者が少なくなる中、記憶を記録し公開する媒体としてアニメータードキュメンタリーに注目が集まっています。</p>
<p>映画祭のポスターに林静一さんが多く見られましたけどどういう理由で選ばれたのですか？</p>	<p>林静一さんは、この映画祭の共催団体である ASIFA-JAPAN（国際アニメーションフィルム協会日本支部）の設立時からの会員です。その様な縁で、ポスターのイラストレーションをお願いしたようですが、林さんのイラストレーションは世界中で人気があり、皆さんに喜んでいただけるという理由もあるようです。</p>
<p>海外の映画祭も個人の情熱に頼るような作り方なのでしょうか？</p>	<p>歴史のあるたいていの映画祭は、情熱家の個人がスタートさせています。しかし、時代を経るに従って映画祭の作り方にもバリエーションが生まれています。</p>
<p>芸術家の方は炭鉱のカナリアにたとえられて言われますか、現在、未来をどう捉えられているのでしょうか</p>	<p>芸術家に限らず、市井の人々も未来について感じたり考えたりしていると思います。ですから、現在、未来をどう捉えているかについては、皆さんとあまり変わらないと思います。芸術家が少し違うのは、感じたり考えたりしたことを表現することに長けているということだと思います。</p>
<p>ありがとうございます。開催地として、手を挙げてくれる都市などはないのでしょうか？</p>	<p>現在、京都市にアプローチしていますが、ご存知の通り京都市は財政難です。私はぜひ京都で実施したいと思っていますが、我こそは手を挙げてくれる自治体があれば話しにゆきます。私の活動はまだ殆ど知られていないので、もっと宣伝しないとイケませんね。</p>
<p>デジタルアーカイブについて、写真のネガを外注してJPGでデータ化されているということですが、データの劣化の心配などはありませんか。</p>	<p>おっしゃるとおりJPGは情報が圧縮されて記録されるので、多少の劣化がおきますが、映画祭で撮影されたスナップ写真は「写真そのもの」の価値よりも、誰がいつどこで撮影されたかという「内容情報」の価値の方が高いと考えて作業効率を優先しました。また、専門技術を持つスタッフによる作業なので品質も良かったです。</p>
<p>差し支えなければ大西先生が印象深く記憶している作品や個人的好きな作品、おすすめ作品やアーティストを教えてください！</p>	<p>本当に沢山の大好きな作品があるので絞るのが難しいのですが、今日のお話の流れに則して紹介すると、木下蓮三・木下小夜子が制作しニューヨーク国際映画祭でグランプリを受賞した『MADE IN JAPAN』(1972)がお勧めです。なかなか観る機会が無いと思いますが、リクエストがあれば上映会などを催しても良いですよ。</p>